

持続可能社会実現プロジェクト —地域資源を活かして—

1 目的・概要

現在、世界が抱える問題として、地球温暖化や化石燃料の枯渇といったものが挙げられます。これらの諸問題を解決するために、持続可能社会という考えがあり、近年ではSDGsという持続可能な開発目標が掲げられています。

本プロジェクトでは、地域資源を活かした持続可能な循環型社会の形成を目的として、未来の社会を作る子供たちを対象に、環境問題や持続可能社会に関する意識啓蒙や知識共有をするプロジェクトを行いました。



Annual Schedule

2021年 4・5月	持続可能社会についての討論
6月	プロジェクト実現にむけた討論
7月	春学期成果報告会準備
8・9・10月	イベント開催準備およびジオラマ作成準備
11月	草内小学校でのイベント
12月	草内小学校へのジオラマ設置
2022年 1月	秋学期成果報告会準備

2 成果達成度

本プロジェクトでは、持続可能社会実現に向けて、「若い世代への環境問題についての啓蒙を行うこと」を目標として「イベント」と「ジオラマ」の2つに分けて活動を行いました。以下、各活動内容を記載します。

4.1 イベント

若い世代への環境問題の啓蒙活動の1つとして、京田辺市内の草内小学校においてイベントを開催しました。プロジェクトメンバー全員が噴霧・燃焼研究室に所属していることを活かして、エンジンの動画を通して、その仕組みについて説明を行いました。次に、現在世界で起きている環境問題である地球温暖化と、それが進行すると将来起こることについて、エネルギー資源の詳細と枯渇について解決策であるSDGsや持続可能についての説明を行いました。その内容を踏まえて、班単位ですごくを通して遊びながら簡単な環境に関するクイズについて小学生同士で討論しながら答えを考え、知識を深めてもらいました。その際、大学生と小学生のグループで班ごとに分かれ、小学生から出た疑問を解決できるようにサポートしました。イベントの際には、小学生は積極的に手を挙げて発言をし、熱心にスライドの内容についてメモを取るなどして、一生懸命に学習している様子が見られました。実施後のアンケートでは、「環境に対して家でできることをしていきたい」という回答や「カーボンニュートラルという言葉とその意味について知れた」、「無駄遣いをやめて、3Rをする」といった回答が多くみられました。今回のイベントでは、小学校の授業では学習しない内容について啓蒙をすることができ、小学生に対して、環境問題に対する知識を共有できたことから、持続可能社会の実現に向けた活動ができたと思います。



4.2 ジオラマ

京田辺市は環境に対する取り組みとして、主に4つのテーマを立てています。1つ目は活力に満ちた便利で快適なまち（田園都市）として、自然と調和したコンパクトな都市構造と、道路網、鉄道網やバス路線のネットワークの充実など、誰もが便利に暮らせるまちを目指すことです。2つ目は安全で心安らく優しいまち（安全・安心）として、自然災害に対して、防災・減災体制の強化や治水対策を推進し、災害に強いまちを目指すことです。3つ目は緑に包まれた美しいまち（緑）として、自然と共生し、豊かな自然環境を次世代につなぐまち、良好な都市景観の形成など、環境に配慮した



美しいまちを目指すことです。4つ目は明るい未来を育む文化薫るまち（健康・文化）として、京田辺らしい文化を創造し歴史を未来へ継承する文化の薫るまち、また、だれもが健康で自分らしく生きがいを持って生きられるまちを目指すことです。これらをまとめて、「緑豊かで健康な文化田園都市」を環境に対する展望として掲げています。

そこで我々は多くの人に「地域循環型社会」、「天然資源の消費を少なくし、環境への負担をできる限り低減させるという考え方」を知ってもらう一つの方法として、京田辺市をモデルとし、地域循環型社会をイメージしたジオラマを作成し、草内小学校に2021年12月10日から2022年1月18日の期間で設置することにより、これからの京田辺の未来を担っていく若い世代に持続可能な社会実現に向けて、ジオラマを通して意識の啓蒙活動を行いました。

3 プロジェクトを通じて

この1年間の活動を通じて、私は「課題探求力」「チームワーク」「プレゼンテーション能力」の重要性と必要性を実感しました。現状世界を取り巻く環境問題や、解決に必要な要素を細かく分割し自分たちの出来ることは何なのかを把握すること、また、メンバーと協力して一つの物事に取り込む必要性を強く感じました。メンバーそれぞれ得られたもの、感じたものに違いはあると思いますが、この一年間で貴重な経験を得て成長したように感じます。お忙しい中お時間を割いてくださいました齋藤先生、千田先生、TAの奥隅さんに心よりお礼申し上げます。



編集後記

この1年を振り返ると、本科目は従来履修する座学とは異なり学生が主体的に行動することが求められるため、様々な問題や障害に当たる一方で、そこで得られる経験は大きいと感じます。プロジェクト科目履修以前より、世界の環境問題、および日本の現状についての理解が大いに深まったと同時に、「SDGs」や「持続可能」といった日頃ニュース等で耳にする言葉の具体的な内容、またそれらを実現することがいかに困難であるかを痛感しました。

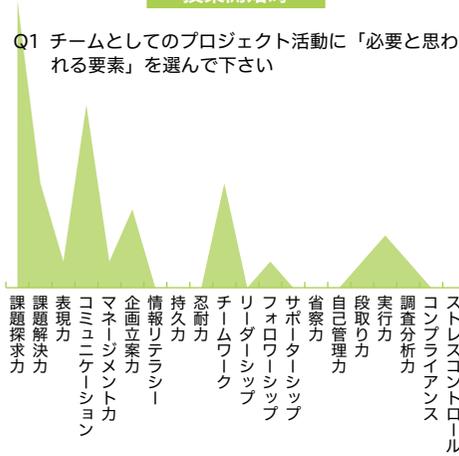
プロジェクトメンバー

森山 拓輝(理工4) 中尾 美紗都(理工4) 下野 星(理工4) 生田 侑也(理工4) 寺田 圭吾(理工4)
梅原 大那(理工4) 横溝 剛(理工4) 後藤 大和(理工4) 林 幹人(理工4) 松矢 悠希(理工4)
鷺田 和樹(理工4) 川村 惇也(理工4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

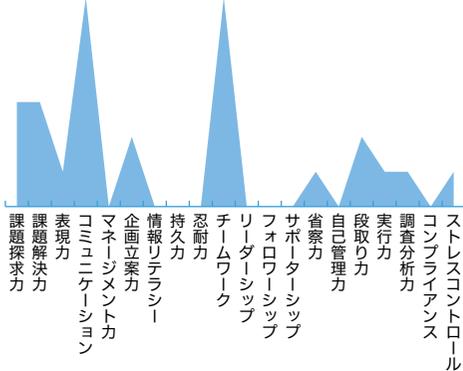
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

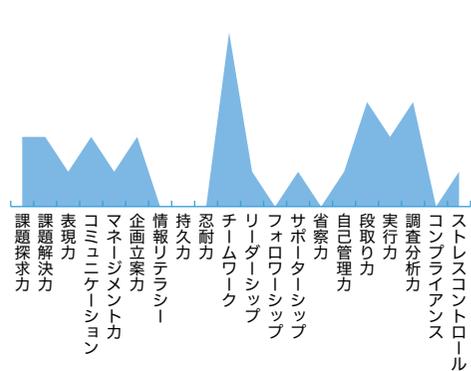


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

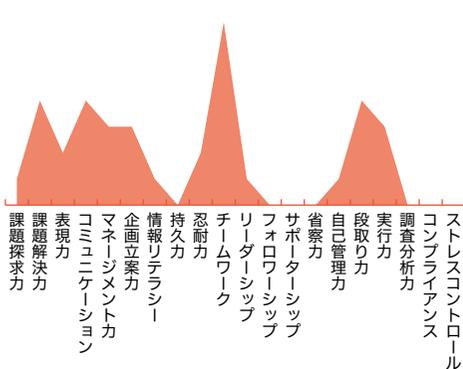


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

